

古代の県下最大級の建物が見つかる!!

— 讃岐国府跡の調査 —



2015年3月
発行：香川県埋蔵文化財センター
〒762-0024
香川県坂出市府中町字南谷 5001-4
tel: 0877-48-2191 / fax: 0877-48-3249
HP: http://www.pref.kagawa.lg.jp/maibun/
E-mail: maibun@pref.kagawa.lg.jp



今年度の讃岐国府跡32次発掘調査では、飛鳥時代（7世紀中葉）から平安時代末葉（12世紀）の長期間にわたる遺構を確認しました。讃岐国府跡において、飛鳥時

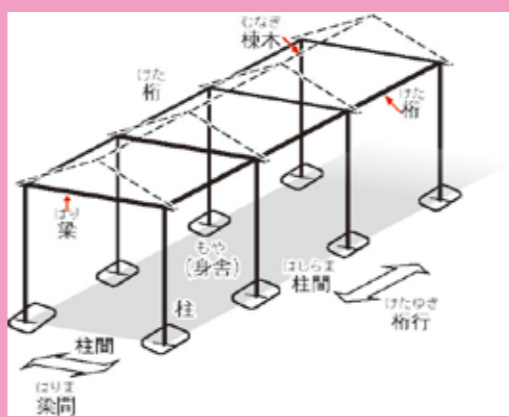
代（7世紀中葉）の竪穴建物や掘立柱建物を中心とした集落が明確に確認されたのは初めてで、現在発掘調査を行っている開法寺伽藍東側に展開する微高地が、讃岐国府設置以前の比較的早い段階から好地として連続と土地利用が行われた重要なエリアであったことが窺えます。

今年度の発掘調査の大きな目的は、これまで開法寺伽藍東側において想定してきた方形区画の北寄りの地点での大型建物の確認と、区画の北・東側の境界を示す塀などの遮蔽施設を検出することにあります。調査の結果、大型建物の一部を確認し、昨年度の31次調査で確認した大型建物と合わせ複数の大型建物が存在することが明らかになるなど大きな成果がありました。区画北側の遮蔽施設は、平成24年度30次調査で確認した柱六列や溝の延長部を検出したものの、東側については当時の地表面が数十cm削平されていることもあり、明確に確認することはできませんでした。この点については今

後の発掘調査の課題となります。

大型建物1は南北3間（9m）、東西2間（6m）を確認しましたが、あくまでも建物の一部しかみえていません。では、どうして大型建物と捉えられるのでしょうか。それは、柱間の長さに理由があります。大型建物1の柱と柱の間隔（柱間）は3m、当時の単位では約10尺となり、建物を作るためには、柱穴に垂直方向で建てられた柱の上部には梁や桁などの屋根材を支える水平材が乗るようになります。その際に柱間が長いほど梁や桁などに厳選された長い真っ直ぐな材料が必要となりますので、柱間の長さから格式の高い大型建物と考えられるのです。

これまで県内の発掘調査で確認された奈良・平安時代の建物をもみても、柱間が3m（10尺）を超える建物は讃岐国分寺僧坊や国分尼寺講堂などの大型建物2棟に限られ、讃岐国府でも初めての事例となるなど極めて希少な存在です。讃岐国府や讃岐国分寺・尼寺は、当時の讃岐国に一つだけ設けられた役所や寺院であり、それだけに格式の高い大型建物が必要とされたと考えられます。



大型建物が建てられた年代は、出土した遺物や建物の方位から奈良時代後半から平安時代前半と考えられますが、詳細は今後の調査の進展を待つ必要があります。昨年度を含めて、現在発掘調査を行っている開法寺伽藍東側のエリアの中で複数の大型建物の存在が明らかになりました。この開法寺伽藍東側のエリアが、讃岐国府の中でのどのような位置付けにあったのか、その解明に向けて今後の発掘調査で、これらの大型建物の方向や規模、配置を明らかにしていくことが焦点となります。

発掘現場から 『姿を現した古代の官道、南海道』

さしのうえ まるがめしはんざんちょう
岸の上遺跡（丸亀市飯山町）



岸の上遺跡では、昨年度に引き続き平成26年11月から発掘調査を行っています。遺跡は市道樋ノ口岸の上線の南北に広がります。この市道は、丸亀平野に広がる条里型地割を主に歴史地理学的な見地から研究した結果、古代の官道である南海道と推定されています。

平成25年度の調査では、市道の南側の道路際で東西方向の溝を確認し、溝は南海道の側溝である可能性が考えられました。また、その南側では11棟の竪穴建物を主体とする古墳時代後期の集落跡が見つかりました。

今年度の調査では、市道の北側でも溝が見つかり、市道の両側の溝は南海道の道路側溝である可能性が高まりました。溝の幅1～2m、深さ0.3～0.5mで市道際で合計4一定でない、溝の埋土に水が流れた痕跡が見られないなどの点から、水を流す目的ではなく区画を目的とした溝と考えられます。



▲ 竪穴建物跡を調査中

溝の埋土中からは遺物はほとんど出土していませんが、わずかな出土遺物から奈良時代から平安時代にかけて掘削されたと考えられています。

さらに、その北側では長さ25m以上にわたる柱六列とそれに平行する2条の溝、掘立柱建物跡が数棟見つかりました。出土したわずかな遺物から、いずれも奈良時代後半から平安時代の遺構と推定されています。柱六列は柵や塀などの遮蔽施設と考えられますが、この役割については現時点ではわかりません。この柱六列の北側約80mの地点で見つかった同じ時期の大溝からは、古代の祭祀具である斎串が出土しました。

古墳時代後期の遺構では、竪穴建物跡のほか総柱の掘立柱建物跡が5棟見つかりました。昨年度調査した古墳時代後期の集落の広がりを確認するとともに、総柱の掘立柱建物の役割を考える新たな課題も浮かびました。

展示のお知らせ

【展示】

- **テーマ展「讃岐国府跡を探る⑥」**
国府の中心施設が見つかった平成24・25年度の調査成果を展示しています。
日時：平成27年1月6日（火）～5月8日（金）
- **速報展「平成26年度発掘調査」**
太田原高州遺跡・岸の上遺跡など平成26年度の発掘調査の速報を展示します。
日時：平成27年4月16日（木）～7月14日（火）
- **テーマ展「西末則遺跡の調査①②③」**
日時：平成27年5月14日（木）～7月14日（火）

【展示室のご案内】

開館時間：9時～17時
※土・日曜日と国民の休日は休館。
場 所：香川県埋蔵文化財センター 第2展示室
観覧料：無料

くわしい情報はホームページ
(http://www.pref.kagawa.lg.jp/maibun/) で公開しています。ぜひご覧ください。

